



どんな所が洪水にあいやすいの

川ぞいの低い土地が洪水にあいやすい

人間は、古くから洪水や、川のはんらんはんらんに苦しめられてきました。

洪水が起こるのは、大雨が降ることがおもな原因です。洪水によるはんらんはんらんが起こりやすいのは、川ぞいの低い土地です。こういう土地は、水田として利用されたり、便利な市街地として利用されています。

都市化が進んだ低い土地で洪水が起こると、川からあふれ出た水は住宅地に流れこみ、家財道具や家を傷つけます。また、工場や商店街に水が流れこむと、機械類や商品が水につかり、大きな被害を受けてしまいます。

このように、洪水の起こりやすい川ぞいの低い土地に、住まないようにすればいいのですが、開発の進んだ平野部では、そもいきません。

最近、郊外の丘陵地にも、住宅地が建設されています。これまで、山林が水を吸いこんでくれていたのですが、住宅地になったため、雨水が地中にしみこまず、水は下流の平野に流れこみ、洪水の被害をあたえています。

そのほか、天井川の周辺や、都市のゼロメートル地帯も、洪水の影響を受けます。

水害に強い町造り

最近、洪水を受けやすい所では、これまでに起こった洪水を分析し、「浸水実績図」や「洪水はんらん対象区域図」などを作り、住民の人たちに知らせるようにしています。そうすることによって、洪水となったときに、水害を防ぐことや、避難方法などを考えてもらおうというものです。みんなで、水害に強い町造りを進めていこうとしています。

(監修・保岡 孝之)

